

## まちネット岸和田会合録

日時：平成20年6月25日（水） 18：30～20：45

場所：市立中央公民館 3階講座室

出席者：20名

講師：高田 美穂 さん（自主学習グループ「いっしょにね!!」、NPO 法人まんまる理事）

### 高田 美穂（たかだ みほ）さん

皆さんは『聞いちゃって』という本はご存知ですか？この本は障がいのある子どもを持つ家族の手記が書かれています。お母さんだけでなく、お父さんやきょうだいの手記も掲載されています。

本を作成するにあたり、障がいを持つ家族を対象にしたアンケート調査が行われましたが、想像以上に厳しい実態が浮かび上がってきました。年齢が上がっても帰宅時間が同じであること、帰宅してから家の中で過ごす時間が多いこと、介護者の健康状態、睡眠時間が短いこと…。

「障がいのある子もない子も、家族みんなも笑顔で過ごせるように！」という想いで、1995年（平成7年）に、自主学習グループ「いっしょにね!!」が立ち上がりました。その活動を通じて家族の本音を聞き、誰もが笑って過ごせる社会を目指し、活動されています。

今回は「いっしょにね!!」の活動を通じ、高田さんが感じた障がい者の家族の本音、理想とする社会はどのようなものかなどをざっくばらんに語っていただきます。今回は「いっしょにね!!」お手製の紙芝居を通して、お話いただきます。

講演の概要：「輝いて生きたい！」

～障がいのある子もない子も、そして大人たちも～

今日は、私の他に応援団が来ています。それは紙芝居をしてくれるジュニアのメンバーです。今日はよろしく願います。

最初に、紙芝居“私の妹”“ゆう君”を見て下さい。



高田 美穂さん

～手作りの紙芝居を拝見しました～

障害のある子どもの家庭は、想像以上に現実には厳しいです。

というのも、年齢が上がっても学校からの帰宅時間は変わらず、放課後、夏休みなどの長期休暇の間も、自宅で母親と過ごす時間が多くなっています。

子ども一人で留守番も出来ず、母親にすごく負担（健康状態、心的負担など）がかかっています。外出すら出来ず、もちろん仕事もしにくい状況です。

そういった意味では、母親だけでなく、家族みんなにも負担はかかってきます（他の兄弟姉妹にかまっていられない）。

紙芝居を持っていろいろな小学校を回っています。そうすると子どもたちは熱心に聞いてくれ、後でいろいろ質問もしてくれます。子どもの頃からの取組みが非常に大切なんだなあと感じています。

～ジュニアの皆さんから一言メッセージをいただきました～

紙芝居は障害のある子どもだけでなく、全ての子どもたちへのメッセージです。今日のお話のタイトルであるように、家族みんな（親、兄弟姉妹も含めて）が、障害のある子もない子も、みんなが輝いて生きたいと強く思います。

必要なことは社会全体での理解です。お金だけではなく、違う方法（声をかけてもらう等）でも支援していただけたらと思います。



手作りの紙芝居です！